

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	担 当 部	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）				
								□指標に係る 取組状況	達成 評価	改善 方策	□指標に係る 取組状況	達成 評価	達成 評価	総合 評価	改善 方策
1	【教務・研究部】	・自身の学びを 実感し、主体的 に取り組む児童 の育成		見直し	主体的な学びに つながる授業づ くりを通して、 児童が学びに向 かう意欲を高め る。	・算数科の学力向上を図るため、 講師を招聘した研修や教員相互の 研究協議会を通して、教材研究及 び授業改善を図る。 ・「授業づくりポートフォリオ」 を作成し、児童の意識調査の変容 から、具体策を検討していく。	①【全国】全国比 国語 113.7% 算数 118.9% 理科 113.8% 【市】全国比 5年 国語 105.1% 算数 111.5% 4年 国語 89.8% 算数 91.6% ②【児童アンケート】 「主体的・対話的で深 い学び」に関する項目 の平均 肯定的評価8 0%以上 ③「授業づくりポート フォリオ」の結果を考 察し、学期ごとに、改 善策を提案する。	4	3	・学力調査結果を分析し、 国語科及び算数科に の重点単元を設定し教材 研究を行う。 ・児童アンケートを分析し、 更に児童の学習意欲 を喚起する授業改善に取り 組む。 ・4年算数科において、 週3から5時間程度複 体制で補教体制を計画 し、個に応じた手立てを 講じる。 ・「授業ポートフォリ オ」を継続して行い、改 善策や手立てを更に検討 していく。	①【市】全国比 5年 国語（112.2）% 算数（129.9）% 4年 国語（98.1）% 算数（105.4）% ②【児童アンケート】 「主体的な学び」に関する 項目 肯定的評価 86.4% 「粘り強く学習すること に関する項目と「振り返り」 に関する項目において、低下 が見られた。 ③「授業づくりポートフォ リオ」で計画したつまずき改善 の取組を全学年で実施し、結 果を踏まえて、3学期の改善 策を検討した。	4	3	4	①市学力調査で明らかとなっ た課題について、教材研究を 行い、単元づくりを教職員全 体で行った。児童の記述内容 をもとに、分析を行い、手立 を検討した。 また、学力向上委員会を設 定し、児童の学びの進捗状 況を確認したり、補教体制を計 画したりする等、教職員全体 で児童の学びをサポートし た。 ②「粘り強く学習すること に関する項目と「振り返り」 に関する項目について、改善 策を検討し、授業改善を図 る。 ③「授業づくりポートフォ リオ」によるつまずき改善の取 組を行い、課題解決に向けた 取組を継続して行う。
1	【健康安全・生徒指導部】	・自己調整 能力と健やか な体づくりの 推進		新規	電子メディアを 使用する時間を 自己決定し、家 庭と連携して生 活を振り返るこ とを通して、自 分の時間を主体 的にコントロール できる力を育て る。	・「メディアコントロール挑 戦カード」に「メディア使用時間」 「毎週末の振り返り」「保護者か らのコメント」の欄を作ること で、児童が主体的にメディア使用 時間をコントロールできるように する。 ・学期ごとにメディアコントロ ール期間を設定する。 ・「生活習慣の七つの目標」の啓 発を行う。 ・懇談や通信で、担任が各家庭 の取組の工夫を紹介し、良い取組 を共有できるようにする。	①【児童アンケート】 「自分の設定したメ ディア使用時間を守 ることができている（最 大値：平日2時間以 内）」 肯定的評価75%以上 【保護者の感想】 「自分が決めた時間を守 ろうとしていた。」 「テレビを没収したり 時間制限の設定をし たりした。」 【保健指導】 前頭前野の動きを紹 介	4	3	・メディアの使用時間は 概ね守れているが、使用 する時間帯が遅い児童が いることが分かった。そ のため、「ストップ9」 を2学期から新たに設定 し、使用時間だけでなく、 使用時間帯も意識さ せるようにする。終了時 間が決まっていると家庭 で声かけやすくなる と考える。	①【児童アンケート】 肯定的評価 83% （2時間以内を5日 間すべて守れた 児童） 第2クール 79% 第3クール 85% 第4クール 70% 第5クール 77% 第6クール 75% 【学級指導】 メディアとのつな がりを考える 【児童の感想】 「早く起きるよ うになった」 「寝る前を本 にするよ うになった」	4	4	4	・「ストップ9」を行 うことで、「朝す っきり起きるよ うになった」 「日中あまり眠 たくな くなった」と 児童が自ら体 面での良い変 化が見られ る感想があ った。 ・メディアコ ントロール できる児童 を増やすた めに、学級 で「やっ めたこと」「 続けたべき か」「メ ディアとの 付き合い方 」を話し合 い、児童が 自分事とし て考え、メ ディアコ ントロール と向き合 い、自主 的に取 り組める ようにす る。
1	【総務部】	ふるさと 芦田に愛着と 誇りをもつ 児童の育成		見直し	体を動かす 楽しさを感じ、 進んで体力づ くりに取り組 む力を育てる。	・毎時間「走」の運動に係る準備 運動を行い、走力の向上を継続 的に行う。 ・毎学期50m走の記録を計り、 児童自身が体力の向上を数値で確 かめることができるようにする。 ・委員会や児童会が提案する 児童主体の遊びや運動を促進 する取組を行う。 ・保健だより等の通信を通し、 日常の運動機会の大切さにつ いて保護者への啓発を行う。	①体力・運動能力調査 「50m走」男女とも に全国平均以上 ②4月より50m走の記 録がよくなった児童の 割合 80%以上 ③【児童アンケート】 「運動（遊びを含む） やスポーツをすること が好き」 肯定的評価8 5%以上 ④「体育が楽しい」 肯 定的評価80%以上	3	4	①②体育の準備運動にお いて、全学年走・跳の運 動を取り入れる。 ③児童会の縦割り遊びや 体育委員会の福リンピ ック等を通して、様々な 運動やスポーツを体験 できるようにする。 ④準備運動で、アク ティブチャイルドプロ グラムを活用し、ゲー ム性のある準備運動 を取り入れて全児童 が楽しんで運動で きる場を設ける。	①【体力テスト結果】 今年の全国平均比： 男子 102% 女子 106% ②【50m走の記録】 児童の割合：92% ③【児童アンケート】 肯定的評価：85% ④【児童アンケート】 肯定的評価：87%	4	4	4	①地域への回覧板を通 じた学校教育への協 力依頼や福相学 区まちづくり推 進委員会及び 福田交流館との 連携を更に 深め、地域の 教材の活用 を一層推 進する。 ②文化庁の学校 巡回公演への アプロ ーチを 続ける とともに 積極的に 外部講師を 招聘し、 教員以外 から指導 を受け る機会 を設ける。 また、「よ うこそ先 輩」の取 組を継続 してい く。

【プロセス評価の評価基準】

【達成評価の評価基準】

【総合評価の評価基準】

評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。